

もくじ

▽理事会便り	9
▽研究満喫（学位取得記）	10
▽第14回国際生理人類学会議第二報	11
▽第80回大会第二報	13
▽学会動静	13
▽第80回大会フライヤー	14

【理事会便り】

会長 安河内 朗

拝啓 新緑の候、会員の皆様におかれましては益々ご清栄のことと存じます。日頃より、本学会の活動にご理解とご協力を頂き、誠にありがとうございます。

さて、昨年度、本学会は創立40周年を迎えました。理事会では、これを機に学会の現状を点検し、今後の運営について議論、検討を行いました。今回は、いくつかの重要な事項について検討の結果をご報告します。

1. 大会の年1回開催

これまで、本学会では国内の大会を、春期と秋期の年2回開催してきました。また、そのほかに、夏期セミナー、関東・関西・九州各地区での研究奨励発表会、各研究部会など、多くの研究集会を開催してきました。今回の検討では、このような学会行事の在り方についても議論を重ねました。その結果、2020年度より、年2回の大会を年1回（原則として春期）の開催とすることと致しました。本学会は、創立以来、原則年2回の国内大会を維持してきましたので、今回の決定は大きな決断と言えます。新たな年1回の大会では、金曜日の午後に学会主催の企画シンポジウムや研究部会、企業向けセミナーなどを開催し、週末を含めた3日間のより充実した年次大会としてリニューアルする案が有力になっています。また、秋期を含むその他の時期には、新しい形での研究交流の場を模索し実現を検討することとしました。研究部会は現状のまま存続しますが、大会に併せた

開催などこれまで以上に活発な活動が期待されます。会員相互の活発な議論を重視する本学会のすばらしい伝統をこれからも守りながら、研究環境や時代の変化に対応した新たな研究交流の形を模索し実現するよう、理事会では今後具体的な方策を検討してまいります。会員の皆様におかれましても、忌憚のないご意見とご提案をお寄せ頂きますよう、お願い致します。

2. 予算編成の改訂

これまで、本学会では学会事務局予算として学会維持に関する事務経費、学会誌の刊行経費、大会や研究部会等の開催補助、理事会や編集委員会等の会合費など、一括した予算編成によって運営してきました。今回の検討では、学会の年間予算の編成についても検討され、一般会計と特別会計の2つの枠による予算編成に改訂することとなりました。一般会計では、基本的な学会の維持経費として学会事務費や学会誌刊行費、大会補助費等を中心に、年度毎の会費収入によって編成します。特別会計では、研究部会や研究助成、国際化など、学会活動の活性化を目的とする事業を中心に、会費と学会資産によって編成します。会員数の減少などにより、近年の会費収入は必ずしも潤沢とは言えないのが現状ですが、維持経費と活性化経費を分離して管理することにより、より効率的な学会の運営を可能にすることを期待しています。

【研究満喫（学位取得記）】

研究の礎：デザインと人間情報科学に学ぶ

小山冬樹（労働安全衛生総合研究所）

この度、千葉大学大学院工学研究科デザイン科学専攻人間情報科学研究室の博士後期課程を2019年3月に修了し、博士（工学）の学位を取得いたしました。日本生理人類学会の先生方には貴重なご意見をいただき大変ありがとうございました。また、関係の学生の皆さまには、ディスカッション等を通じて研究交流していただきありがとうございました。現在は、独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所産業疫学研究グループにおいて、任期付研究員として勤務しています。

私は大学、大学院の在学期間を通して、デザイン科学を専攻してきました。大学に入学したばかりの頃、「デザインとは、（１）ヒトが日常生活を営む上での要望や問題点、または、潜在的に必要とされているがまだその必要性が指摘されていないもの（潜在的ニーズ）を観察、調査により発見し、（２）それを改善するための解決策を見出し、（３）その考えを言語や図案、模型等の手法を用いて他者と共有できる状態にする（記号化）、というプロセスを持った一連の創造的活動である」と授業で習いました。その授業を受けるまでは、デザインといえば思いついたアイデアを元に絵を描いて製品の形やパッケージを考えるというような漠然とした考えしか持っていなかった私でしたが、デザインのプロセスという考え方を知り、視野が広がりました。中でも特に、デザインの研究対象にはモノだけでなくヒトも含まれているという重要な点に気づかされました。それは、問題点や潜在的ニーズといったデザインの対象を発見し、その解決策を考案するためには、そもそもヒトがどういうものなのか、つまり、ヒトが持つ特性について知っていなければならないということです。このような経緯でヒトの研究をすることに興味を持ち、人間情報科学という学問分野に出会いました。

人間情報科学とは、ヒトが行っている知覚認知的情報処理の過程や、感覚情報のインプットから行動というアウトプットまでのヒトの中での情報処理プロセスについて、生理学的または心理学的手法を用いて科学的に明らかにする学問分野です。この研究成果により、例えば、どういう画面デザインにしたら操作しやすいのか、または、情報に対して素早く反応するためには情報提示にどういう条件が必要かなどといったデザインの指針を得ることに加え、どのようなデザインは

避けるべきかという制約事項がわかるようになります。

私が人間情報科学を学んでいて強く記憶に残ったことは、「ヒトにとって良いデザインがなされているかを考えるに際しては、ヒトとモノ（ヒトと環境）の適合性という観点が重要である」ということです。この適合性の評価に際しては、「身体的適合性」「感覚的適合性」「認知的適合性」「感性的適合性」の4つの観点が存在します。デザインの評価をする上では、この4つのそれぞれの観점에서、モノ（環境）がそれとともに生活するヒトに「フィット」しているかどうかを調べる必要があります。この「4つの観点ごとに細分化して多角的に評価する」という考え方はデザインの評価での話ですが、実は生理人類学が関心領域とする「生きているヒトとそれを取り巻く環境」を研究対象とする場合全般においても、この考え方は有効だと私は考えます。

私は現在研究所において、労働者の健康と安全を確保するために必要な研究に携わっています。ここでの研究も「生きているヒトとそれを取り巻く環境」に関するものであり、「4つの観点ごとに細分化して多角的に評価する」という考え方は効果を発揮していると思います。具体的な例として職場環境における疲労を引き起こす要因を考える場合、「机や椅子の高さが合っていない」「ディスプレイに光が反射して見えにくい」「機器の使い方や作業フローが分かりづらい」「作業スペースがうるさくてイライラする」など様々な要因が考えられますが、これらは、身体、感覚、認知、感性と、問題となっている適合性の観点がすべて異なります。このため、同じように「仕事による疲労」を調査研究対象とした場合でも観点ごとに適切な評価方法が異なるため、要因を細分化して評価対象や方法を設定する必要があります。このように、諸問題を考えるとき、例えば、「なぜ疲れるのか」と考えると問題点や評価項目を絞りづらいますが、「どこが適合していないか」と考えると詳細に問題点を浮き上がらせることができますようになります。

ここに書いたことは専門分野の人にとっては基本的な事項だったかもしれませんが、基本を押さえておけば他の場面（職場環境や研究テーマが変わったときなど）でも応用が利くことの一例です。今になって振り返ってみると、基本を忠実に学ぶことが、私の研究の礎となっていると感じました。これからの研究活動においても、基本を疎かにせず、芯の通った研究になるように励んでいきます。

做うことを卒業し自立した研究者を目指す

西村悠貴（労働安全衛生総合研究所）

本年の3月、九州大学大学院の平成最後の博士課程修了生として、博士（感性学）の学位を賜りました。これまでにご指導・ご助言いただいた先生方、そして学会等多くの場面でご助言を賜りました学会員の皆様に感謝申し上げます。

学位論文のタイトルは「Investigation of a Flexible Inhibitory Process of Automatic Imitation and its Individual Differences: an EEG Study」です。ヒトなどの脳に備わっているミラーシステムは、自動模倣という社会生活を営む上でとても重要な脳機能を支えています。一方で、無制限な自動模倣は円滑な交流を妨げるという側面も存在します。そこで、自動模倣の活動を臨機応変に調節する脳活動が注目されています。私の研究ではこの自動模倣の活動調節に関わる脳活動について、脳波を用いて明らかにすることを目的としました。

得られた結果は、綺麗なものとは到底言えないものでしたが、抑制に関わる脳活動の指標と自動模倣の活動指標の間に関連性を見出すことができました。したがって懸念事項はあるものの、当初予想していた両者の関連性を示唆する結果が得られただけでなく、これまで主流ではなかった脳波を用いても示すことができる可能性を提示できました。

私は、学部入学時にはまさか修士課程に進学するとは思っておらず、修士進学時も修士課程修了後には一般企業に就職しようと考えていました。しかし、修士課程に進学してからしばらくたった時、指導教授である樋口重和先生にお声がけいただき、研究者として生きる道について考え始めました。自分のこれまでの研究を振り返って、楽しさと同時に不甲斐無さも感じていた折でもあり、研究を続けることで何とかその不甲斐無さ（振り返った時の物足りなさ）を解消できないかと考えたことを覚えています。研究の楽しさそして奥深さを教え、研究者の道へ誘ってくださった樋口先生をはじめ、九州大学芸術工学の人間工学講座の諸先生方、またその歴代学生メンバーの皆様、本当にありがとうございました。

日本生理人類学会は若手の交流が盛んであり、学部生の時から比較的気軽に参加することができました。また、私のつたない発表に対して、先生方からとても示唆に富んだコメントや応援のお言葉をいただき、大変励みになりました。このような素晴らしい環境を築いてくださった先輩方、そして今そのような場を維持するために尽力

されている先生方には、大変感謝しております。今後は後輩達に、そのような刺激のかつどこか落ち着く場を提供すべく、微力ながら恩返ししていければと思っています。

今年度からは神奈川県に登戸にあります労働安全衛生総合研究所で、過労死等の防止に関する調査研究に従事します。これまでに取り組んできたミラーシステムの研究からはいったん離れてしまうかもしれませんが、ヒトの脳・感性について取り組んで培ってきた経験などを強みにして、これからの仕事に取り組んでいきたいと考えています。今後とも学会内外でお世話になるかと存じますので、どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



博士論文公開發表会（最終審査）の様子。他学府の方や、遠方の方にもお越しいただき、多くの議論をさせていただきました。

【第14回国際生理人類学会議（第二報）】

国際担当理事 恒次祐子、山内太郎

以下のように第14回国際生理人類学会議（ICPA2019）が開催されます。交通の便も良いシンガポールでの開催となりますので、みなさまの積極的なご参加をお願い申し上げます。

大会長のChew Fook Tim先生も、日本から多くの学生、研究者の参加を希望することです。南国のオープンな雰囲気の中で行われる会議にぜひご参加ください。

会議概要

会議長：Dr. Chew Fook Tim
（写真）

（Associate Professor,
Department of Biological
Science, National
University of Singapore）
会期：2019年9月24日（火）
～9月27日（金）



場所：シンガポール国立大学生物学部 32 番講義棟 (Lecture Theatre (LT) 32, Department of Biological Sciences, National University of Singapore)

メインテーマ：Human Physiology and Urban Living

大会ウェブサイト：

<http://www.dbs.nus.edu.sg/ICPA2019/>

参加登録

大会ウェブサイトアクセスし、「Registration and Abstracts submission」から参加登録を行ってください。

【登録費】

一般：700 シンガポールドル

学生：350 シンガポールドル

(1 シンガポールドル≒80 円 (2019 年 5 月 13 日現在) です。)

- ・早期登録割引はありません。
- ・参加費の内訳は後日書類で送付されます。
- ・同伴者の登録を希望される場合は、国際担当(下記の問い合わせ先)までご連絡ください。

発表申込 (アブストラクト提出)

大会ウェブサイトアクセスし、「Registration and Abstracts submission」から発表の申込みを行ってください。申込み時にアブストラクトの提出が求められます。なお、一般演題は基本的にポスター発表となります(一部口頭発表に変更となる可能性があります)。

【アブストラクトについて】

- ・大会ウェブサイトからアブストラクトのテンプレートを取得して作成してください。
- ・氏名等を除き 200 語までとし、図表は使用しないでください。
- ・アブストラクト締切は 2019 年 8 月 20 日です。

宿泊

大会オフィシャルホテルは PARK AVENUE ROCHESTER HOTEL です。当ホテルにおいて、大会割引価格での予約を受け付けています。大会ウェブサイトから ROOM RESERVATION FORM を取得し、記入後メールで pagroups@uel.sg までご送付ください。

- ・会期中は PARK AVENUE ROCHESTER HOTEL から会場までの送迎があります。

(他のホテルに宿泊される場合は、申し訳ありませんが自力で会場までお越しください。)

・ブロック予約 (大会用の部屋数確保) はしていませんので、予約を保証するものではありません。お早めに予約をお願いいたします。

・シンガポールは物価が高く、ホテル代も高めです。リーズナブルなホテルとして大会事務局より以下のホテルを紹介いただいています。

Santa Grand Hotel West Coast

<https://www.santagrand.sg/santa-grand-hotel-west-coast>

プログラム概要

大会ウェブサイトにてプログラムが随時更新されています。「PROGRAM」というリンク (<http://www.dbs.nus.edu.sg/ICPA2019/ICPAprogram.pdf>) より最新版 (PDF) をご参照ください。以下は暫定的な内容であり、変更の可能性があります。なお、セッション名は口演セッションのものであり、ポスター発表はセッションには分けずに行われる予定です。

○9 月 24 日 (火)

登録、若手の会、プレナリーセッション、オープニングバンケット

○9 月 25 日 (水)

セッション 1: Thermal Stress and Performance in Urban Settings

セッション 2: Genetic Characteristics Associated to Physiological Traits

セッション 3: Impacts of Urban Overheating on Human Thermal Comfort

大会オフィシャルバンケット

○9 月 26 日 (木)

IAPA 総会

セッション 4: Brain and Cognitive Functions in Social Environments

セッション 5: Non-visual Adaptations to Artificial Lighting Environments

セッション 6: Urbanization and Techno-Adaptability

エクスカーション (Gardens by the Bay)

9 月 27 日 (金)

セッション 7: Urbanization in Asia and Child Health

セッション 8: Physical Activity and Nutrition on Health

セッション 9: Work Environment and Occupational Health

閉会式

交通 (2019 年 5 月現在)

日本からシンガポールへの直行便は、東京(成田、羽田)発、大阪発、名古屋発、福岡発があります。シンガポール内の交通は MRT (Mass Rapid Transit) と呼ばれる電車が便利です。チャンギ国際空港や会場であるシンガポール国立大学をはじめ、主要な場所へはほとんど MRT で移動することができます。

お問い合わせ

ご不明なことがありましたら学会国際担当までご連絡ください。よろしくお願い申し上げます。

国際担当理事

恒次祐子 (東京大学)

03-5841-5251, a-yukot[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp

山内太郎 (北海道大学)

taroy[at]med.hokudai.ac.jp

【第 80 回大会のご案内 (第二報)】

早野順一郎(名古屋市立大学大学院医学研究科)

本年 10 月、名古屋市立大学(桜山キャンパス)において第 80 回大会を開催させて頂くことになりました。令和への改元では日本人のころの中に脈々と受け継がれる日本文化の存在が改めて浮かび上がった感がありましたが、その一方で、令和は情報技術の生活環境への本質的な浸透の時代となることを誰もが予感しています。われわれは、人類史を通じて形成してきた生理学、心理学、行動学的機能の質的・量的な「テクノ・アダプタビリティ」を否応なく試される時代を迎えることになります。この歴史的過程を、人類にとって如何に安全で幸福なものにするかという課題に対して、生理人類学会は大きな役割を担う必要があると思います。

そこで、この課題に対するひとつのアプローチとして、第 80 回大会では「テクノ・アダプタビリティ」の研究に、国際的にも最も早期からご自身の実践を通して取り組まれている神戸大学大学院工学研究科の塚本昌彦教授をお招きし、ウェアラブル・コンピューティングの課題やこれからの可能性についてお話し頂きます。また、シンポジウムでは、現在、IoT の拡大によって急速にビッグデータ化しつつある日常活動下の生体信号

連続データの意義と活用法を考えるために、東京大学の山本義春教授に司会をお願いし、4 名のシンポジストをお招きして生体信号の計測、分析、解釈についての解説と最新の動向についてのお話を頂きます。

今回は、日本生理人類学会初の名古屋市開催となります。多くの会員の皆様にご参加頂き、学会と併せて名古屋の様々な文化や風土にも触れて頂ける機会になりましたら幸甚でございます。

会期：2019 年 10 月 26 日(土)～27 日(日)

場所：名古屋市立大学病院(名古屋市立大学桜山キャンパス内)、市営地下鉄桜通線「桜山」駅下車正面、名古屋駅から 17 分

演題登録：2019 年 7 月 1 日(月)～8 月 23 日(金)
大会 HP より

特別講演：講師・塚本昌彦先生(神戸大学大学院工学研究科教授・特定非営利活動法人ウェアラブルコンピュータ研究開発機構理事長)

シンポジウム：「生体信号処理の最先端：計測、分析、解釈と応用」、司会・山本義春(東京大学大学院教育学研究科教授)、コーディネータ・早野順一郎(名古屋市立大学大学院医学研究科教授)、シンポジスト・神谷幸浩(愛知県立大学情報科学部・准教授)、中村 亨(大阪大学大学院基礎工学研究科・特任教授)、清野 健(大阪大学大学院基礎工学研究科・教授)、百瀬桂子(早稲田大学人間科学学術院・准教授)

【学会動静】

<大会予定>

- ・第 80 回大会：2019 年 10 月 26-27 日、名古屋市立大学
- ・第 81 回大会：2020 年、長崎大学

from Editor

次号No. 3から事務局・編集体制が変わります
次号No. 3の原稿締切は2019年7月25日です

▽PANews 編集事務局

下村 義弘(千葉大学大学院工学研究院)

メールアドレス panews@jspa.net

※お問い合わせはこのアドレスにお送り下さい。

日本生理人類学会第80回大会

● 大会長

早野 順一郎 (名古屋市立大学大学院 医学研究科)

● DAYS

2019.

10.26 SAT ▶ 27 SUN

● VENUE

名古屋市立大学病院 3F大ホール



特別講演
&
シンポジウム

FREE

● SYMPOSIUM

生体信号処理の最先端:計測、分析、解釈と応用

●オーガナイザー 早野 順一郎

(名古屋市立大学大学院 医学研究科 教授)

●司 会

山本 義春

(東京大学大学院 教育学研究科 教授)

▶清野 健(大阪大学大学院 基礎工学研究科 教授)

▶中村 亨(大阪大学大学院 基礎工学研究科 特任教授)

▶百瀬 桂子(早稲田大学 人間科学学術院 准教授)

▶神谷 幸宏(愛知県立大学 情報科学部 准教授)

●発表申込・参加登録 2019年7月(予定)

●問合せ先 日本生理人類学会第80回大会

大会実行委員長 湯田 恵美

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

名古屋市立大学大学院医学研究科

医学・医療教育学分野

Tel: 052-853-8506

E-mail: jsps80@med.nagoya-cu.ac.jp

特別講演

塚本 昌彦

● MASAHIKO TSUKAMOTO

神戸大学大学院工学研究科教授

特定非営利活動法人ウェアラブルコンピュータ研究開発機構理事長

ウェアラブルコンピューティング、コピキタスコンピューティングのシステム、
インタフェース、応用などに関する研究を行っている。

応用分野としては特に、エンターテインメント、健康、エコをターゲットにしている。
2001年3月よりHMDおよびウェアラブルコンピュータの装着生活を行っている。